

道

2020・9・16

通信 No 1602



アラゲハンゴンソウ

次週 9月23日 (水) 6時~9時

場 所 吉野町市民プラザホール (小坂先生・二宮先生)
練習曲 鶴 百万本のバラ マロースカ 道
持物 楽譜 マスク着用 会場費300円 筆記用具
前半組練習開始 午後6時10分
後半組練習開始 午後7時35分

《52周年定演に向けての練習再開にあたって》

団長 淵 真澄

3月から8月まで半年間の休止期間を終えて、ついに、9月5日の練習再開日を迎えることができました。新型コロナによって世界中が揺さぶられ、合唱団「道」の51周年定演も中止の止む無きに至りました。団員の皆さんも外出自粛要請に基づく巣ごもり生活を余儀なくされ、鬱々とした日常を過ごされていたことと思います。

新型コロナはいずれワクチンや治療薬の開発によってインフルエンザ並みの扱いになると予想されておりますが、その時期が来るまでは感染予防策を講じた上での日常活動が要求されます。合唱団「道」としては全日本合唱連盟が公表している「ガイドライン」に沿った対策を講じたうえで活動していきたいと思っております。9月5日の練習会場や団員の皆さまへの種々お願い事項はこのガイドラインに沿ったものです。

さて、52周年定演向け合唱練習につきましては新進気鋭の清水先生を新たにお迎えし、中山先生、小坂先生、二宮先生、森先生とともに新陣容でのスタートとなります。感染予防に十分な注意を払いながら合唱練習に取り組んでいきましょう。

リレーエッセイ 《三度目の正直?》

T1 岡田紀久生

終わりの見えない新型コロナに全国の否全世界の合唱団が苦慮している今日この頃です。既に解散した合唱団や団員減少に直面している合唱団もあると聞きます。

さて、半世紀にわたる歴史のある「道」も過去に2回存続の危機に見舞われたことがあります。その時の様子を綴ってみます。

1969年「第九」を母体として誕生した私達ですが74年になると団員も名簿上22名と半減。毎回の出席も10名程度になり「解団」の臨時総会が13名で行われました。財政、運営等検討を重ねた末『解団』が議決されようとした時、指揮者の北川先生が一言「解団するのは簡単だがまた創りだすのは大変ですよ」。この一言で団員の心は一つにまとまり解団の憂き目にあわずに済みました。

1986年1月、不幸が立て続けに合唱団を襲いました。3日、三代目のピアニスト西川なるみさんが喘息の為急死。同じ7日療養中だった北川剛先生が脳内出血で65歳で亡くなりました。指揮者とピアニストを同時に失った私達は茫然自失!しかしその悲報の日も練習は粛々と行われました。というのも85年より体調不良の北川先生に代わり中山先生の指導も始まっていた。西川先生のピアノは友人であり団員であった鈴木聡子さんがいたからです。

この様な不幸困難を乗り越え現在の「道」があります。青山先生没後の小坂先生であり、中山先生のバトンを引き継ぐ清水先生です。きっと困難に打ち克ち新しい「道」が拓かれていくと信じています。